

令和4年度第1回
板橋区地域ケア運営協議会

令和4年7月29日（金）

板橋区健康生きがい部おとしより保健福祉センター

会 議 名	令和4年度第1回板橋区地域ケア運営協議会
開 催 日 時	令和4年7月29日（金）午後2時から午後4時まで
開 催 場 所	おとしより保健福祉センター 3階多目的ホール
出 席 者	委員14名 （菊池委員、野村委員、小林委員、比留間委員、石崎委員、石黒委員、宮田委員、吉田委員、小澤委員、七島委員、奥永委員、石川委員、和泉委員、篠田委員） 事務局（おとしより保健福祉センター職員） オブザーバー（介護保険課長、蓮根おとしより相談センター長、舟渡おとしより相談センター長、板橋区社会福祉協議会生活支援コーディネーター）
議 題	1 協議・承認事項 （1）介護予防支援業務の一部委託先について【資料1】 2 協議・報告事項 （1）板橋区仲宿地域包括支援センター事業委託先法人の選定方法について【資料2】 （2）令和3年度おとしより相談センター決算一覧【資料3】 （3）令和3年度おとしより相談センター活動実績【資料4】 （4）令和3年度おとしより相談センターに対する研修・連絡会一覧【資料5】 （5）おとしより相談センター職員について【資料6】 （6）おとしより相談センター個人情報保護措置状況の立入調査の結果について【資料7】 3 その他 令和4年度地域ケア運営協議会の日程について （1）個別ヒアリングに参加 令和4年11～12月頃 （2）第2回地域ケア運営協議会 令和5年1月頃
傍 聴	傍聴者 1名
所 管 課	健康生きがい部おとしより保健福祉センター管理係 （電話：5970—1119）

協議内容	
1 協議・承認事項	
(1) 介護予防支援業務の一部委託先について【資料1】	
介護普及副係長	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料1の説明) ・東京都や板橋区等が実施する研修を受講し、介護予防ケアマネジメントを実施するにあたり、必要な知識を有していると認める事業所であることを確認している。 ・事業所の閉鎖や対象者の給付管理が終了したため、解除となった事業所が4か所ある。
2 協議・報告事項	
(1) 板橋区仲宿地域包括支援センター事業委託先法人の選定方法について【資料2】	
管理係長	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料2の説明) ・現在、仲宿おとしより相談センターの業務を委託している「社会福祉法人 寿栄会」から、来年度の契約から辞退したいとの申し出があった。 ・地域包括支援センター業務は単年度の委託契約のため、契約上、辞退の申し出を拒むことはできない。 ・寿栄会は、長年の活動実績、地域住民からの評価・信頼を得ている点から、区として慰留に努めたが、法人としての経営判断として決定したことであり、覆ることはないと回答を受けた。 ・今年度の運営に関しては、契約及び仕様書に則り、区民へ提供するサービスが低下しないよう、引き続き適正に業務を行うよう法人には指導した。 ・今後、新たな委託先法人を選定する必要があるため、資料にあるとおり、選定に関しては「公募型プロポーサル方式」にて実施したい。 ・後ほど説明するが、1月の地域ケア運営協議会において、選定業者について承認事項として上程する予定。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・このスケジュールにのっとり、選定を進めてもらう。 ・残りの期間については、契約に基づいてしっかり運営していってもらうよう、区としても指導に努めてもらいたい。
(2) 令和3年度おとしより相談センター決算一覧【資料3】	
管理係長	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料3の説明) ・収入欄について、「受託収入」は区からの業務委託料。 ・「介護報酬」はおとしより相談センターが指定介護予防支援事業所として、介護度が「要支援」の方に対し、介護予防プランを作成するが、その報酬。 ・「その他」は、認定調査の調査収入や前年度繰越など。 ・支出分野について、「人件費」は、センターの職員に対する人件費。 ・「一般経費、その他」は、備品や文具、家具什器、光熱水費、センターによっては家賃など。 ・「次年度繰越、補てん費等」は、その他の経費となり、運営する法人により次年度繰越や補てん等に充てられる。 ・一部のセンターについてはマイナスとなっているが、センターの運営を行っている法人内で調整しており、センターの運営には問題がないことを確認している。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・仲宿包括の撤退については、経営判断とのことで収支の問題によるものと理解したが、この決算書を見る限り問題があるとは思えない。 ・委託包括が変わることは、地域住民にとって職員の変更やサービスの低下に対する懸念等、大変なことであるが、金銭的な面で何か問題があるのであればそれを教えてもらいたい。
所長	<ul style="list-style-type: none"> ・資料3を見ると黒字が出ており、必ずしも決算のみの問題ではない。 ・法人で別に展開している事業との親和性等も踏まえ、法人全体としての経営判断により撤退となったと報告を受けている。
(3) 令和3年度おとしより相談センター活動実績【資料4】	
管理係長 介護普及副係長	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料4-1の説明) <ul style="list-style-type: none"> ・小地域ケア会議の報告。小地域ケア会議は、ケアマネジメント支援型地域ケア個別会議として、支援困難事例等の支援内容の検討を通じて、ケアマネジメントの実践力の向上、地域のネットワークの構築、地域課題の把握を目的とする会議体。 ・各包括には年1回以上開催するように委託している。 ・21回、23事例の検討を実施した。 ・延べ368名の出席者のうち、おとしより相談センター、おとしより保健福祉センターの職員を除いた、257名が会議に出席した。 ・主任介護支援専門員と介護支援専門員が大半を占めている状況。 ・36の地域課題が挙げられ、ケアが不足している、ケア提供者の実践力や連携が不足している、地域の方の理解も不足している、その他の4つに分類した。割合は表に示した通り。 ・(資料4-2の説明) <ul style="list-style-type: none"> ・地区ネットワーク会議とは、日常圏域ごとに各おとしより相談センターが実施している会議体。 ・各関係団体から推薦された委員の皆さまに集まっていただき、地域課題等を情報共有し解決の方向性を見いだすことを目的としている。 ・地域の実情や内容により必要に応じて、地域のお店の方など、委員以外の方にも参加いただき、地域での助け合い、いわゆる地域包括支援ネットワークの構築も目指す。 ・令和3年度はコロナ禍であったが、各センターで感染対策を十分施した上で実施した。 ・(資料4-3の説明) <ul style="list-style-type: none"> ・(1)はおとしより相談センターが主催した事業数と参加者数になります。 ・(2)は、地区民生委員協議会、町会長会議に、センターとして参加した回数。 ・地区民生委員協議会、町会長会議とも、主催側で開催を判断するので参加回数にバラつきがある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小地域ケア会議、回数1回以上の委託のなかで、舟渡は5回以上やっているので、今回いらしているため、せっかくなら工夫している点などを伺いたい。
舟渡 センター長	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で何とかやっていかなきゃという思いはあった。 ・地域の方々の参加を心がけて開催した。第2層協議体いわゆる支え合い会議

	<p>等の方、民生委員の方に積極的にお声掛けした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人暮らしの引きこもりがちな高齢者の外出、社会参加を考えるときに、専門職の方が集まると、コロナ以前はデイサービスとか、介護保険サービスに偏ったフォーマルな情報提供で終わっていた会議が多かった反省の思いがある。 ・前年度は地域の方にお声をかけて、その対象となる高齢者の地域、近所の方々に参加いただき、より身近な社会参加について、意見交換を実施した ・大きくは3回やりまして、1、2回目は、2事例を検討し、最後の3回目地域にあるフォーマルなサービスを提案できる方々を募って開催する方法で実施した。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーの抱える支援困難事例を地域で共有し、地域の課題を明らかにして、そしてまたそれをネットワークを通じて、区政へ生かしていく形で、地域包括ケアシステムを構築するためには、とても重要な会議。 ・蓮根おとしより相談センターにも話を伺いたい。
蓮根 センター長	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーが抱える困難事例を地域で解決するために引き続き、小地域ケア会議を開催している。 ・本日配付された事例集を見て、舟渡おとしより相談センターが小地域ケア会議の開催において、工夫され、短時間で参加者を集めて行える点が素晴らしいと感じた。 ・当センターでも参考に運営していきたいと思う。
(4) 令和3年度おとしより相談センターに対する研修・連絡会一覧【資料5】	
管理係長	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料5の説明) ・おとしより相談センター職員に対する研修、連絡会等。 ・例年実施しているものですが、備考欄にあるとおり、コロナ禍の状況を鑑みて、ウェブ開催としたものも多い状況。 ・ウェブ開催については、慣れてきたこともあり、特に対面の必要がない場合は、Web開催・リモートの開催に切り換えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・専門研修の主任ケアマネジャー指導力強化研修「気づきのスーパービジョン」を主任介護支援専門員協議会でも、おとしより保健福祉センターと協力しながら行っている。 ・スーパービジョンの自主的な学びを深めていくという前段階として、基礎的なことをこの研修で勉強し、継続的に自主的なスーパービジョンの勉強会をやっていく。 ・現在1グループのみ立ち上がっているが、研修をベースにして、そこからさらにスーパービジョンの実践を深めていくというような、そんな流れに繋がっている。 ・包括や居宅は問わず、主任介護支援専門員の資格を持っている方に対して実施している
(5) おとしより相談センター職員について【資料6】	
管理係長	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料6-1の説明) ・職員数の推移になる。 ・非常勤職員は常勤職員1に対して0.6と換算している。 ・ここ数年は、全体として130人くらいで推移している。 ・(資料6-2の説明)

	<ul style="list-style-type: none"> ・今年4月1日の各おとしより相談センターの職種別配置数と各圏域の高齢者人口、及び令和3年度の相談件数実績の表。 ・高齢者人口について、65歳以上が131,824人に対し、昨年は132,328人であり、500人ほど減少している。 ・一方、75歳以上は69,675人ですが、昨年は68,432人と1,200人ほど増加していることから、いわゆる後期高齢者の割合が増えていることが分かる。 ・認定者数は、26,021人となっており、令和2年度は25,809人であるため、微増している。 ・相談件数について、110,028件となっている。令和2年度は108,685件であり、こちらも微増。 ・予防給付管理件数について、要支援の1、2の方が訪問看護や福祉用具の貸与などの介護予防サービスを利用されている方のプランを管理している件数になる。 ・3年度実績が34,048件、2年度は31,650件であるため、2,400件ほど増加しています。 ・ケアマネジメント管理件数について、「介護予防ケアマネジメント」とは要介護認定において「要支援」に認定されたが、介護保険の予防給付を受けない方と、介護保険の要介護認定を受けてないが、基本チェックリストによって事業対象者となった方が対象となる。「介護が必要な状態となることを防ぐ」「要介護状態になっても、今より悪くなることを防ぐ」ことを目的にケアプランを作成し、サービスの利用につなげるマネジメントになる。 ・ケアマネジメントAは、指定事業者による通所型、もしくは訪問型サービスのみを利用する方のケアマネジメントになります。 ・ケアマネジメントBは、区が実施している短期集中予防サービスのみ、又は短期集中予防サービスと通所型Bを利用している方のケアマネジメント。 ・ケアマネジメントC、こちらは、住民主体、ボランティアによります通所型サービスBのみを利用する方の介護、ケアマネジメント。 ・ケアマネジメント支援延件数について、近隣のケアマネの方から相談を受けたときの支援が1,682件。 ・その前年が1,548件なので特に大きな変動はない。 ・その隣、自己作成支援者件数、一番右端になりますが、こちらは、家族の方がケアプランを作成する際の支援、アドバイスの件数。55件に対し前年は66件だった。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとに比較すると後期高齢者が一番多いのが高島平だが、他おとしより相談センターの状況をみても8名は妥当なのか。 ・認定率が17.6%と、高齢者人口が多いのに対し、認定率が低い背景というのは、かかりつけ医に繋がりがづらいとか、認定を妨げるような背景はあるのか。
管理係長	<ul style="list-style-type: none"> ・団地に特化した包括であり、介護予防活動等も盛んで、元気な高齢者が多いという認識。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・65歳以上の人口は減っている一方、75歳以上人口は増えている。 ・コロナ禍で東京都から地方に人口が流れるという事が一時期言われているが、何かデータがあるのか。
管理係長	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年に向けて、いわゆる後期高齢者になる団塊の世代の方たちが高齢化していくというような状況もあると思う。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・高島平の75歳以上人口が多いが、認定率が平均より低いということについて補足をする。 ・高島平包括の圏域は団地のみになっており、昭和47年に入居が始まって、いわゆる団塊の世代の方たちが、高い割合を占めていらっしゃる。 ・75歳以上の中でも比較的若い、75歳に近い比較的若くてまだ介護認定まで行かない層の方たちが多く、それよりも上の層というのが非常に少ないというのが特徴的な地域であるというのが数字に出ていると思う。 ・逆に言うと、これからその年齢層の方が高齢化していくので、どこかの段階で、むしろ他の地域より認定率が上がる可能性はある。
所長	<ul style="list-style-type: none"> ・委員から非常に現場に近いところからのご意見をいただいた。 ・この資料作成にあたって、分析という観点では、まだ様々な視座があると思ったところ。 ・ご意見いただいた点等を、今後事業に生かして参りたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・高島平の認定率が低いことについて、以前から議論がされていたため、何か理由や背景が分かるとよい。
所長	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ地区でも年齢層に偏りがあって、決して平均じゃない点は非常に大切な視点だと考える。 ・ピークが偏っている点、年齢層が均一でない点は非常に重要なポイントだと思う。 ・他の地区でも同様な事象があるかもしれないため、この視点も今後分析に生かしていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、死亡率を地域ごとに比較するときには、地域の平均年齢が高いと死亡率が高いということは、当然なので、各地域の平均年齢が同じときの死亡率を計算することができる。 ・これは認定率の計算にも同様。 ・年齢を5歳刻みにして、年齢の影響を取り除いた認定率を出すことができますので、依頼いただければ計算してみます。 ・おとしより相談センターの職員数に関して、常勤かつ専従職員5名以上というのは、最低限の基準。 ・認定者数、常に75歳以上、65歳以上の人口と、実際に配置している常勤、非常勤の職員数を見ると、必ずしも比例していないように思う。 ・例えば、仲町に関しては、認定率が高い割に職員数は、最低基準の人数と少しになる。 ・例えば、年齢とか人口の影響を除いた高齢者人口1000人当たりの職員数を計算すると、それぞれのセンターにおける適正な職員配置かどうかを検証できると思う。 ・こちらも必要があれば、エクセル等を渡していただければ、計算します。
所長	<ul style="list-style-type: none"> ・統計に基づいた計算をしていくのが今後の課題で重要であると思う。 ・今後も協力してもらえるとありがたい。
(6) おとしより相談センター個人情報保護措置状況の立入調査の結果について【資料7】	
管理係長	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料7の説明) ・例年9月に立入調査を実施していましたが、今年度は運営協議会のスケジュール変更に伴い、5月に実施した。 ・今年度は仲町、常盤台、三園、高島平の各センターに立ち入り調査を実施。

	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらのセンターも評価項目に対して適正な取り扱いがなされていましたが、2点指摘があった。 ・常盤台おとしより相談センターでは、事故発生時のマニュアルは整備されていたが、その中に、連絡体制については記載されていなかった。職員は連絡体制について把握していたが、マニュアルに記載すべきであるとの指摘を行った。 ・パソコンの利用における外部記録媒体の保管状況について、常盤台おとしより相談センターではUSBメモリを使用していて、その保管は施錠可能な棚で保管していた。 ・いくつかのメモリは個人の机に保管しており、机は施錠できるものだったが、個人での管理であると紛失のリスクが高いため、集中管理すべきとの指摘を行った。 ・以上2点について、その後の是正状況の報告を受け、現在は適正に運用されている。
【参考資料1】(1) 健康福祉委員会関係事務事業概要より抜粋	
管理係長	<ul style="list-style-type: none"> ・こちらは、令和3年度の区の高齢者福祉事業及び地域支援事業の実績と令和4年度の事業一覧となっており、一部他の課の事業も含まれている。 ・高齢福祉事業は住民税など一般財源を基にした一般会計予算、地域支援事業は介護保険料を基にした特別会計予算でまかなわれる。
【参考資料2】(2) 令和3年度板橋区ケアマネジメント支援型地域ケア個別会議（小地域ケア会議）まとめ	
介護普及副係長	<ul style="list-style-type: none"> ・小地域ケア会議の23の事例をまとめたもの。 ・どんなことを検討したのか、またその検討した結果明らかになった課題・成果等、明らかになった個別支援の方法、見えてきた地域課題解決のための方向性、モニタリングの結果等を掲載している。 ・各おとしより相談センターのほか、主任介護支援専門員協議会、全事業所連絡会、医師会の療養相談室や社会福祉協議会に配布している。
【参考資料3】(3) 地域包括支援センター圏域別高齢者・認定者等（65歳以上のみ）	
管理係長	<ul style="list-style-type: none"> ・おとしより相談センター圏域別の高齢者人口、要介護認定者数、在宅介護認定者数。 ・特段、大きな変動はないが、先ほども触れたように、65歳以上の高齢者が減少しているにもかかわらず、75歳以上の高齢者が、僅かに増加している。 ・それに伴うように、介護認定者も昨年比、0.2%増加。
3 その他	
令和4年度地域ケア運営協議会日程について	
管理係長	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から、委員の皆さまに各おとしより相談センター委託先法人とのヒアリングに参加していただく予定。 ・11月～12月にかけて、1人の委員あたり2センターとのヒアリングに参加いただくことを想定している。 ・日程は後日、調整させていただく。 ・第2回地域ケア運営協議会を1月に開催し、仲宿おとしより相談センターの委託先法人の承認に伴う審議とともに、他の18センターの次年度の委託先法人の審議もしていただく予定。
富士見及び桜川おとしより相談センターの移転時期について	

<p>管理係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の地域ケア運営協議会で富士見おとしより相談センターと桜川おとしより相談センターの移転について審議いただいた。 ・その中で、秋ごろに開設予定と説明させていただきましたが、桜川おとしより相談センターの開設が遅れており、年明けになる予定。 ・高齢者や車いす利用者の利便性を考え、敷地内スロープを設置する工事を新たに追加した状況のためである。 ・高齢者や障がい者が利用しやすい施設を目指し、丁寧に進めてまいりたい。 ・なお、移転までは現在の所在地にて業務を行っていく。
<p>～閉会～</p>	